

アルペン気分の尾根を夏山に向けて 谷川岳～茂倉岳

実施日 2012年7月15日(日)
 天候 曇り
 C L 涌井良明 S L 鈴木政三
 参加者 齋恵美子、涌井良明、鈴木政三、山崎富美恵、鈴木恵美子、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、遠井謙策、中村友子、伊藤久雄、長濱隆行、長濱あゆみ、小名秀鋭、石附智子、佐藤政司 計16名
 費用 交通費JR11,220円(東京起算)バス1,100円ロープウェイ1,140円、タクシー860円
 費用 計14,320円
 タイム 天神平(9:05~9:20)熊穴沢避難小屋(10:08~10:15)休1750m付近(11:16~11:25)肩の小屋(11:50~12:25昼食)トマの耳(12:35~12:40)オキの耳(13:00~13:10)一ノ倉岳(14:26~14:35)茂倉岳(15:00~15:10)茂倉避難小屋(15:20~15:35)矢場ノ頭(16:38~16:45)休1170m付近(17:35~17:40)登山口・登山の広場(18:35~18:45タクシー)越後湯沢駅西口(19:00)
 データ 積算距離 11.5km
 移動平均速度 1.8km
 総上昇量 870m
 下山標高差 1,290m
 最高高度 1,978m
 行動時間 9時間15分

リザー都合で北八ヶ岳の宿泊山行から日帰りへの変更で、前週中止になった谷川岳をショート縦走プランとして実施した。雨に振り込まれることもなく、日帰りとしては当会入会以来最も充実した？歩きの出来た山行ではなかっただろうか。厳しい山行に参加してくれたメンバーに感謝します。



9時20分曇天の天神平をスタート、梅雨のさ中だが、登山者の数は非常に多い。

高温、多湿と最近の雨天続きで木道を含め足元に注意しながらゆっくりと歩く。熊穴沢避難小屋辺りで霧雨がぱらつくが直ぐに止む、小さい岩場がでてくるがそのたびに渋滞



になっている。逆層と濡れでやや足場が悪いとも思うが、単に人が多すぎるのか？人気の山なのか意外と若い登山者の多さが目立つ。

森林限界を過ぎると雲の切れ間から覗かせる束の間の展望を励みに登る。方的小屋手前の雪渓も夏道には影響ないまでに縮小していた。

肩の小屋前の賑やかな群れに混じって、万太郎への国境稜線を見ながら我々も昼食にした。



小屋から僅かでトマの耳だが、当面側はガスに覆われて全く見えないが、メジャーな山頂では皆楽しそうである。

少し高いもう一つの耳オキの耳に着くと大粒の雨がぱらつき出し、雨具を着込む。此处から先が今日の核心部の行程であるが、雨天時にはあまり歩きたくないルートになってしまうので、ああ、往路



を振り返ることになるのか、との思いがよぎるが、その雨も数分で収まってほっとする。

好天ならば東面のマチガ沢、一ノ倉沢などの日本最大級の迫力の岩場を眺めな

がらの稜線歩きだが今日は乳白色の幕があるだけである。小さな岩場、鎖場をいくつか越して行くが、足元には盛夏を彩る高山植物が次々現れ慰め役を務めてくれている。前方にはすっと立ち上がる一ノ倉岳がカッコいいが、あの傾斜を登ると思うとねえ…

足がすくむお立ち台のノゾキも通過するが、下が見えないのが幸いか、今日は何も感慨もない。一ノ倉岳の登りにかかり、振り返るとガスも薄れ驚愕の谷の全容ではないが、その一端を目にすることが出来た。次に来る時には全貌を見せてくれるかもね。

長そうに見えた急登も一步一步の繰り返しで一ノ倉岳に登り着く。入口が壊れているが上越名物かまぼこ型の避難小屋がある小広い頂だ。縦走スタートの谷川岳がずいぶん遠ざかった景色になった、



見せてくれる山並は2000m足らずとは思えないアルペン的な眺望にいつもながら上越山塊の素晴らしさと同時に手ごわさを感じる。次の

茂倉岳へは気分も良い稜線歩といった感じだ、勿論山ならではの花々が文字通り花を添えてくれているのは言うまでもない。

縦走路との分岐点でもある茂倉岳山頂で集合写真に収まり、谷



川岳に別れを告げて長い下山にかかる。頂上下のりっぱな茂倉小屋(無人)まで下り、水場の美味しい水を味わってから茂倉

新道に入る。上越特有の草付きのやせ尾根道を下るが、滑りやすい泥道でもあるので気が抜けない。小さなピークの川棚の頭を越し、尾根上を忠実に辿る。やや大きめの矢場の頭に着いて、土樽へ1時間40分とある導標を見る、ここでタクシーを手配して歩きにく



い桧廊下と言われる道が始まる。大木の根が張り出した道を跨ぎ、乗越して進む。

16人の大パーティでもあり、疲れも出てきているので焦らずにゆっくり確実に長い尾根道を下る。桧廊下を過ぎると滑り易い急な泥道下りとなり高度を下げて行く。蒸し暑さが戻ってきた樹林帯の道を緩急を繰り返し下り、周囲がやっと山麓の雰囲気変わってくると傾斜は緩み平坦道を僅かに進むと登山口の広場に飛び出した。



タイミング良く到着していたタクシーに乗り湯沢駅に向かう。

日帰り山行で行動時間9時間15分に及んだ山行も無事に完走できた。正直長丁場でやや心配していたメンバー構成ではあったが、やれば出来るを見せてもらい、会の力量が底上げされてきているのが実感でき本当にウレシイ気持ち湧き上がってきた山行となった。

お蔭で帰宅後体は疲れているにも拘わらず、興奮が収まらず殆ど熟睡できずに翌日は終日朦朧として過ごすことになってしまった。

会員の皆様にただ感謝するのみです。

また、行きたいですか？

オイラは遠慮しとこかな (@_@)

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・伊藤 久雄)